

コメンタリー運転

PART II

～コミュニケーションドライブを考える～



コメンタリー運転とは？

コメンタリーとは、解説・論評、ラジオやテレビの実況放送という意味もあります。したがって、コメンタリー運転というのは、刻々と移り変わる道路や交通の状況を、あたかも実況放送しているかのように話しながら、車を進めていく運転方法だといえます。

最初は、難しく考えずに、危険を積極的に探し、それへの対処方法を口に出す練習から始めましょう。

また、コメンタリー運転が無事故と地域の環境保護につながり、SDGs達成の実現に貢献します。

■交通間のコミュニケーションドライブ

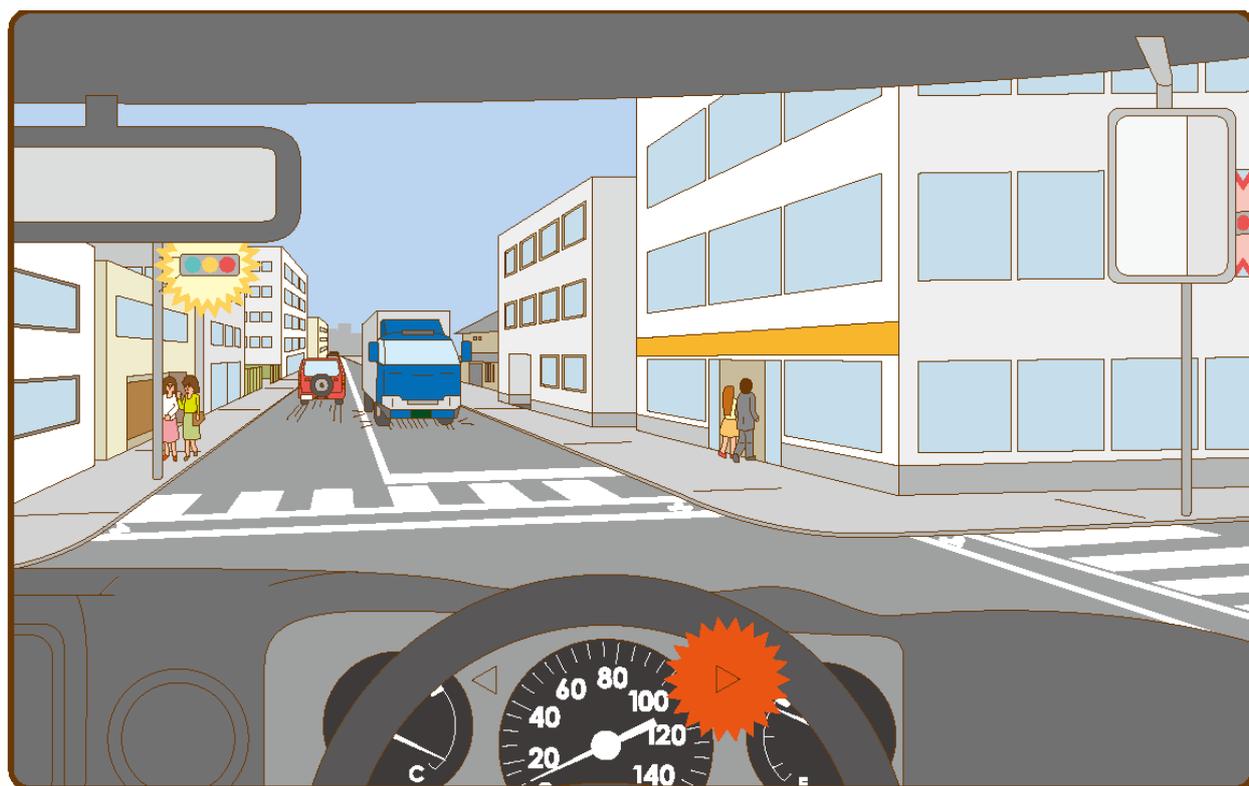
■エコドライブの実践

- ・ふんわり発進（ソフトな発進）
- ・車間距離の確保（定速走行）
- ・日常点検の励行（タイヤのチェック）など



コメンタリー運転の利点

それぞれの交通場面で、その中に潜む危険な事象と、それへの対処方法を口に出す「コメンタリー運転」は、ドライバー自身の注意力や判断力を高めるだけでなく、次の利点も持っています。



- ① 「**見ているもの**」・「**感じていること**」を、口に出すことでセルフコントロールの訓練になる。
- ② 積極的に危険を探すようになり、最も安全な運転方法を考える習慣がつく。
- ③ 常に起こりうる危険を予測するようになる。
- ④ 「**危険予知トレーニング**」を行い、安全運転能力は日を追って向上する。



遠くを広く見る

運転中は、遠くを広く、近くも広く見てください。
意識して視線を動かし、それでも足りないときは顔を振り向けて見なければ、視力上の欠点を克服することはできません。



見えない所へも注意を向ける

「ひょっとしたら」という疑いの気持ちを持ち、見えない部分にほんのわずかな注意を向けることで、悲惨な事故が防げることになります。



呼称は簡単なほうが言いやすい

コメンタリー運転での危険認知呼称は、車や歩行者などの道路利用者が主な対象です。
個々の動静をよく見たうえで、特に注意を要するものだけを呼称の対象にします。



- 道路を歩いている人は子供・大人・高齢者を問わず
- 自転車に乗っている人は年齢や性別に関わらず
- 自動二輪車と原付自転車は
- トラック・バス・乗用車は一括して
- 道路の左側にいるときは
- 交差点の右方から接近してくる場合は

「歩行者」
「自転車」
「二輪車」
「車」
「左」
「右」



意思決定呼称は常に変化する

危険だと思えるものを読み上げたら、次はとるべき運転行動を考え、その結果を呼称します。これを「意思決定呼称」といいますが、呼称の仕方は「よーし」と「停止」の二つだけです。

- 相手の動静を見て、停止態勢に移る場合は **「停止」**
- このまま進行しても大丈夫だと判断したときは **「よーし」**

※ただし、車も歩行者も常に状態が変化していますので、「停止」を「よーし」に、「よーし」を「停止」に言い換える場合も出てきます。
 ※コメンタリー運転で「注意」と呼称するのは、青信号と黄色の点滅信号だけです。青信号で「信号、よーし」は、注意力低下につながります。

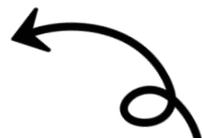
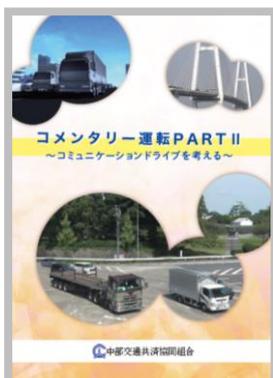


停止態勢は4段階に分かれる

危険への対処方法を考えた結果、「停止」と呼称した場合は、すかさず次の行動に移ってください。

- 第1段階 アクセルペダルを戻す
- 第2段階 フレーキペダルへ足を移す
- 第3段階 フレーキをかける
- 第4段階 止まる

※「ブレーキをかける」とは、減速、徐行または最徐行。



社内研修等でお役に立ていただければ幸いです。
詳しくは、DVDをご視聴下さい。